

会館だより

2012年 10月号 第280号



公益財団法人 日中友好会館

「会館だより」10月号の内容

行事案内

《日中友好会館美術館》

- ・写意精神—日中美術作品交流展

《日中友好後楽会》

- ・10月談話会
- ・秋季友好ハイキング

活動記録

- ・加須ホームステイ
- ・平成24年度中国高校生訪日団第1陣
「キズナ強化プロジェクト」で来日
- ・平成24年度
東日本高校生訪中代表団を派遣

会館行事と人の動き

表紙

『故郷！郷里？』 範文国 作

(絶版木版画 2011年 96×69 cm
雲南省普洱市美術館所蔵)

行事案内

日中友好会館美術館

◆写意精神—日中美術作品交流展

会 期：2012年10月26日(金)～29日(月)
時 間：10時～17時(最終日は15時まで)
会 場：日中友好会館美術館
入場料：無料
主 催：有限会社新民画廊
後 援：外務省、中華人民共和国駐日本国
大使館文化部、(公社)日本中国友好協会、
(公財)日中友好会館、(一財)日本中国文化
交流協会、(社)日中協会

中国、日本の書画家との交流展として日中美術作品交流展を開催致します。中国書画家35名、日本書画家16名の作品です。日中の友好を深め、本展を通して多くの方々に作品をご覧いただき作品の中からそれぞれの文化を感じ、心に感動を残していただける様な作品展にしたいと考えております。ぜひご来場下さいますようお願いしております。

【お問合せ】(有)新民画廊

電 話：0475-76-1618

日中友好後楽会

◆10月談話会

日程、内容決定次第、追ってホームページ、郵送等でお知らせいたします。

◆秋季友好ハイキング

日時：11月27日(火)8:30 日中友好会館前
集合、18:00頃帰着 予定
行先：江の島と新江の島水族館
(神奈川県藤沢市)
参加費用：お一人12,000円
(バス、昼食、入場料込み)

春のハイキングが行われなかったので、一年ぶりのバスハイクとなりました。新しい後楽寮生が多く入りましたので、ぜひこの機会に交流を深めて下さればと思います。江の島を訪れた事がある方は多いかと思いますが、寮生さんと交流しながら、改めて巡ってみるのもよろしいのではないのでしょうか。お気軽にお電話・メールにてお問合せください。お申込みの方には、詳しいご案内を送付いたします。

【申込み・問合せ】

後楽会事務局 小林陽子・大竹貢

電話：03-3811-5305

FAX：03-3811-5263

メールアドレス：bunka@jcfcc.or.jp

活動記録

◆加須ホームステイ

8月23日、私達日中友好会館後楽寮の留学生と訪問学者10名は埼玉県の加須市へホームステイに行き、現地の民間団体「日中友好加須市民会議」の熱烈な歓迎を受けた。



加須駅にて河野会長（前列中央）を囲んで

加須市は東京から約50キロメートル、人口約12万の町で、埼玉県の北東部に位置し、2010年3月に隣接する北埼玉郡3町と新設合併した。加須・大利根区域と北川辺区域の間に利根川が流れ、市の北東部に渡良瀬川と渡良瀬遊水地がある。景色は優美で、特に「鯉のぼりの故郷」として有名で、鯉のぼりの生産量は日本一だ。

日中友好加須市民会議の草間豊さんら一行が「日中友好」の旗を持って、わざわざ東京の浅草駅へ私達を迎えに来られた。

昼ごろ私達は加須に到着した。市内のレストランで盛大な歓迎会が開催され、市を代表して加須市役所の小暮弘総務部長と教育委員会の渡邊義昭教育長が出席された。私達は自分の「家族」と一緒に写真を撮ったりして和やかに交流した。

交流会の中で、今年で82歳の会長・河野加代子さんが日中友好加須市民会議について説明された。

日中友好加須市民会議は初代会長の梅沢

三保さんが若い時に中国の大連で生活したことがあり、中国人民の友好、善良な印象は深く、彼女が退職後の長い時間を有意義に過ごし、日中友好に貢献したいと思っていたことと、改革開放直後は、日本にいる中国の留学生はとても少なく、イベントなどもめったになく、経済的な面からも、毎日寮と教室を往復するだけの寂しい生活をしてきたことを知って、中国の留学生のために交流のプラットフォームを作りたいと考え、36年前に市民会議を創設された。

その後、中国の留学生を招待し、加須市でホームステイすることを始めた。今年で31回目を数え、最も多い時は1回に40数人を招待したこともあった。市民会議の現在の会員は65名で、ほとんどの方が60歳以上であり、初代会長の梅沢さんも2004年88歳で亡くなったため、河野加代子さんが会長を引き継いだ。

河野会長は退職する前は中学校の国語教師で、日本語の多くは中国の歴史と文化に関連し、それで彼女は中国の文化に対して特に興味を持って、退職以前から積極的に日中友好加須市民会議に参加していた。毎年一回は中国に旅行し、毎年5月に行われる「市民平和祭」の時には、日中友好加須市民会議として露店を出し、旅行した時のお土産や中国の小さいアクセサリなどを売ることで中国の留学生と交流する資金を工面していると説明してくれた。

午後1時半ごろ、私達はごみの焼却処理を行う加須市クリーンセンターと環境浄化センターを見学した。クリーンセンターで山積みされたごみは十分に燃焼し、その熱量を使ってお風呂などに使うようにし、残された灰は埋められ、クリーンセンター内では異常なおいも少なく、煙突からも黒い煙が出ていなかった。環境浄化センターでは、私達は自然の中の微生物の力を利用して、生活污水を処理し直接河の中へ排出する流れを見学した。

午後4時ごろ加須市役所を訪問し、加須市市長大橋良一さんはご多忙の中、私達を

迎えてくれた。加須市でホームステイすることを歓迎し、心から留学生が加須市民と交流を深めること、中日両国の相互理解を促進するためへ貢献することを期待しているとおっしゃった。



加須市長（前列中央）を表敬訪問（前列右端が筆者）

5時ごろ私達はそれぞれのホストファミリーに迎えられ、解散した。私のホストファミリー中嶋さんと、門井さんの家族と一緒に日本料理店で私たちを歓迎してくれた。にぎやかな雰囲気だった。

24日、私達一行は日中友好加須市民会議のみなさんと共に、栃木県の有名な観光地の日光に向かって、世界文化遺産の東照宮と中禅寺湖と有名な華厳の滝の魅力を味わった。

東照宮は、日光市に所在する神社だ。江戸幕府初代将軍・徳川家康を神格化した東照大権現を祀っている。中では様々な建物に多様な動物の木彫像を見ることができる。これらの動物のほとんどは平和を象徴している。眠り猫は踏ん張っていることから、実は家康を護るために寝ていると見せ掛け、いつでも飛びかかれる姿勢をしているともいわれているが、もう一つの教えとして、裏で雀が舞っていても「猫も寝るほどの平和」を表している。

神厩舎には猿の彫刻を施した8枚の浮彫画面があり、猿が馬を守る動物であるという伝承から用いられている。この8枚で猿の一生が描かれており、ひいては人間の平和な一生の過ごし方を説いたものとなって

いる。日光の木彫像の中で眠り猫に続いてよく知られている、「見ざる、言わざる、聞かざる」で有名な三猿は、この神厩舎に造られたものの1枚に過ぎない。なお、「見ざる、言わざる、聞かざる」は「幼少期には悪事を見ない、言わない、聞かない方がいい」という教えなのだ。

華厳の滝は、仏教経典の1つである華厳経から名づけられたといわれる。中禅寺湖からの地表を流れる唯一の流出口大谷川にある滝。落差97mの滝を一気に流れ落ちる様子は壮観で、日本三名瀑のひとつにも数えられている。

8月25日は11時に花崎コミュニティセンターで日中友好交流会が行われた。皆さんと一緒に歌ったり、踊ったり、本当に楽しかった。草間さんたちが披露した日本の伝統的な芸能南京玉すだれやマジックは特に面白かった。三時間はあっという間に過ぎた。この貴重な機会を通じて私たちは日本の熱心な方々に接することができ、日本人の普段の生活を体験し、日光の素晴らしい景色を満喫し、日本社会と日本文化に対する理解をさらに深めた。三日間のホームステイは美しい思い出になった。みんな心から感謝する気持ちが満ちている。いつかまた会えることを期待している。日中友好は本当に大事なことで、これからも皆さんと一緒にがんばらなければならないとしみじみ思った。



寮生とホストファミリーが歌を披露

（後楽寮寮生 楊桂朝）

◆平成24年度中国高校生訪日団第1陣 「キズナ強化プロジェクト」で来日

2012年8月19日から26日の日程で、平成24年度中国高校生訪日団第1陣(団長・黄穎 中国教育部国際合作交流司 副巡視員)が来日した。外務省が実施する「アジア大洋州地域及び北米地域との青少年交流(キズナ強化プロジェクト)」の一環として、中国の吉林省、遼寧省、内蒙古自治区から学生219名、引率30名から成る計249名が来日し、外務省訪問、セミナー、早稲田大学キャンパスツアー、歓迎会に参加した後、宮城県を訪れ、東日本大震災被災地への訪問を通し、日本の震災からの再生に関する理解を深めたほか、東京と神奈川で学校交流を行い、日本の高校生と友情を育んだ。

東日本大震災被災地～ 宮城県名取市、岩沼市、山元町、松島町を訪問



震災の爪痕が残る宮城県農業高等学校旧校舎を視察

訪日団一行はキズナ強化プロジェクトに基づき、宮城県名取市、岩沼市、山元町を分かれて訪問した。名取市では復興が進む閑上地区、がれきが残る宮城県農業高等学校旧校舎を訪れ、津波の破壊力の大きさを実感した。岩沼市では、仮設住宅や集団移転促進事業予定地、工業団地等を車窓見学し、がれきを活用してつくった防波堤や、海浜緑地公園跡を視察し、復興の取り組みに理解を深めた。山元町では、山元町中浜小学校旧校舎を訪れ、当時の話を聞いた。

生々しい津波被害の傷跡を目の当たりにした高校生達は、自然災害の脅威を実感したようだった。

また、全員で、多賀城市総務部交通防災課より「東日本大震災に学ぶ～多賀城の被害状況～」をテーマに講義を受けた。当時の状況、震災を通じて学んだこと、震災対策について話を聞き、自らの辛い経験を語った講師に励ましの拍手が送られ、高校生達にとって意義ある時間となった。

充実した学校交流



日本高校生に和太鼓を習う
(東京都立町田総合高等学校)

学校交流は東京と神奈川の4校で行われ、いずれも温かな歓迎を受けた。

東京都立大田桜台高等学校では、アットホームな雰囲気の中、歓迎会、校内見学、茶道体験、交流会を通じ、日本高校生と友好を深めた。東京都立町田総合高等学校では、日本文化の体験授業として、華道と和太鼓に挑戦した。お別れの場面では涙を流す生徒も見られた。神奈川県立神奈川総合産業高等学校では、機械、バイオ、環境学習室といった特色ある教室を見学し、交流会を行った。最後に「上を向いて歩こう」を合唱し、言葉の壁を越えて友好を深めた。大東文化大学第一高等学校では、部活動見学と、家庭科、茶道、華道、卓球、書道の授業体験に分かれて行い、家庭科で白玉あんみつを日本高校生と一緒に作り、和やかな雰囲気の中かで親睦を深めた。

どの学校でも最初は緊張の色が見られたが、アニメや音楽などのポップカルチャー、学生生活など同世代共通の話題で盛り上がり、皆笑顔に溢れ、充実した時間を過ごした。

そのほか一行は、群馬県で谷川岳や天神平展望台をはじめとした大自然を満喫したほか、ガラス工芸や藍染め体験を通し、日本の伝統文化の一端に触れるなど、さまざまなプログラムを実施し、包括的な対日理解を深めた。本団の受け入れにご協力下さった関係機関・関係者の皆様に、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

(総合交流部)

◆平成 24 年度

東日本高校生訪中代表団を派遣 北京・西安・上海で交流

平成 24 年度東日本高校生訪中代表団(団長＝武田勝年・公益財団法人日中友好会館理事長、副団長＝遠山茂・外務省アジア大洋州局中国・モンゴル第一課地域調整官、一行計 417 名)が、2012 年 8 月 2 日から 8 月 10 日の日程で訪中した。中華人民共和国教育部が受け入れを担当し、日本側派遣実施を当公益財団が担当した。



北京歓迎宴にて記念品交換

(左) 武田勝年団長・(公財)日中友好会館理事長
(右) 紀宝成・中国教育国際交流協会副会長

本団は平成 23 年 5 月に来日した温家宝・中国國務院総理からの提案を受け、中国政

府の招待により実施され、東日本大震災で大きな影響を受けた、青森県・岩手県・宮城県・福島県・茨城県・千葉県の 6 県の高校生が参加した。北京で歓迎宴、万里の長城見学、中国文化体験などの活動を行った後、Aコースは西安、Bコースは上海を訪問し、それぞれ学校交流や歴史遺跡の見学を行った。参加した高校生は、交流を通じて現地の高校生らと親睦を深めるとともに、悠久の歴史と経済発展著しい中国の現状について理解を深めた。

西安・上海で学校交流

Aコース(茨城県、青森県、福島県の高校生・引率 201 名)は、西安で陝西省西安中学と西安交通大学附属中学を訪問した。歓迎会では日中高校生がパフォーマンスを披露したほか、各種スポーツ、書道、囲碁、腰太鼓、造花づくり、クイズ、舞踊等の活動に参加し、一緒に楽しみながら交流を深めた。

Bコース(岩手県、宮城県、千葉県の高校生・引率 216 名)は 6 グループに分かれ、上海市甘泉外国語中学、上海市閔行中学、上海市実験学校、上海市彭浦中学、上海市嘉定区安亭高級中学、上海市工商外国語学校を訪問した。各校で、歓迎セレモニー、パフォーマンス披露、校内見学、伝統文化体験、ワンタン作りなどの活動に参加し、夏休みにもかかわらず集まった大勢の中国高校生と交流したほか、6 校合同で日中高校生交歓会が開催され、日中の生徒がパフォーマンスを披露し合った。日本高校生は、日本舞踊や空手演武、よさこいソーランなど 5 演目を披露した。

中国の歴史、文化、「今」を学ぶ

訪中団の日程には交流プログラムのほかに中国を体感する多彩な活動が組み込まれていた。北京では、故宮博物院や頤和園などを見学したほか、科挙博物館見学や手工芸体験を通じて中国文化を満喫した。西安では、兵馬俑博物館、鼓楼・鐘楼、大雁塔などの見学のほか、唐代音楽・舞踊を鑑賞

し、上海では文化教室（顧刺繍、草編み）やドラゴンボート体験、サーカス鑑賞を行って、中国の歴史文化に触れ、発展著しい中国の「今」を実感した。

震災からの復興を目指す地域に住む高校生達は、中国高校生との交流を緊張しながらも心から楽しみ、中国との絆を実感したようだ。寄せられた感想から、それぞれが訪中を通じて大きく成長したことがうかがえた。



中国高校生と交流
(上海市工商外国語学校)

今回の訪中団実施にあたり、ご指導ご協力いただいた関係機関・関係者の皆様に、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

(総合交流部)

会館行事と人の動き 8/1～31

● 会館行事

- 7/25～8/ 1 ▶ 「平成24年度中国青年代表団第1陣」来日
- 8/ 2～8/10 ▶ 「平成24年度東日本高校生訪中団」訪中
- 8/ 2 ▶ 後楽会中国画教室
- 8/ 3～8/ 9 ▶ 主催展「日中青少年書道作品展」
- 8/17～8/20 ▶ 貸美催事「日中国交正常化40周年記念 日中友好書画展」
特別展：現代中国の草聖「于右任書展」
- 8/19～8/26 ▶ 「平成24年度中国高校生訪日団第1陣」来日(8/20同団歓迎会、8/25歓送報告会)
- 8/22～8/26 ▶ 貸美催事「曹達立油絵展」
- 8/23～8/25 ▶ 加須市ホームステイ（後楽寮生）
- 8/28～9/ 2 ▶ 貸美催事「筆之友選抜書道展」

● 来館・訪問・面会

- 8/ 3 ▶ 東京華僑総会往訪（王理事）
- 8/14 ▶ 中国国家観光局 張西龍東京総代表との夕食会（王理事）
- 8/16 ▶ 江橋評議員往訪（武田理事長）
 - ▶ 横堀理事往訪（王理事）
- 8/20 ▶ 三井不動産 北原義一常務取締役来館（武田理事長、小島事務局長）
- 8/22、30 ▶ 青山監事往訪（武田理事長）

● 行事参加、その他の活動

- 8/30 ▶ 小倉輝明水墨画 上海展開幕式参加（王理事）